

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100097		
法人名	有限会社 大塚台夕月		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	宮崎市大塚台西3丁目23番地2		
自己評価作成日	平成28年10月 5日	評価結果市町村受理日	平成28年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&jisyosyoCd=4590100097-00&PrefCd=45&Version=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、閑静な住宅地の中に位置し地域に溶け込むため、自治会に入会して防災訓練・清掃等の自治会活動に積極的に参加している。また、近隣には児童館・保育園・小学校・コミュニティセンターがあり児童達の慰問・食事会への参加等、一年を通して数々の交流を行っている。一方、施設内においては毎朝のテレビ体操や公園への散歩、天候によっては音楽に合わせて室内歩行を行う等、入居者の下肢筋力の低下を防ぐ努力を行っている。医療面では、往診体制を取り安心して生活できるように医師と看護師が連携を図りながら、職員が介護にあたっている。また、皆が楽しみにしている食事においては、リクエストを聴いたり個々の健康面を考慮して可能な限り、旬の食材を用いて美味しい食事を提供するようにしている。また、天気の良い日には近くの公園でお弁当を食べたりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは大型団地の一角に立地しており、近隣には児童館や保育園、コミュニティセンター等があり、恵まれた生活環境の中にある。開設から10年が経過し、地域に溶け込み、地域の一員として受け入れられ、その基盤を確立するための努力をしている。また、近隣の保育園や児童館の子供達と交流したり、自治会の行事に積極的に参加するなど、地域との交流を深めている。運営者は人材育成に力を入れ、職員を内外の研修や勉強会に積極的に参加させ、資格取得と能力向上を支援している。利用者が日々元気に生活できるよう、職員は温かいケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の就業時に目につく場所に理念を掲げ、職員それぞれが意識しながら実践できるようにしている。月1回の職員会の時に声を出して読み、意識確認をして実践につなげている。	毎月の職員会議やミーティングで、理念を声に出して読み、全員で意識確認を行い、理念の共有に努めている。理念を踏まえて、利用者の気持ちに寄り添った温かいケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板を通して自治会行事に参加している。ふれあい食事会などで顔見知りになり、日常的に挨拶をかわし、一斉清掃等にも参加している。	ホームの開設から10年が経過する中で、地域に溶け込み、地域の一員として受け入れられている。近隣の保育園や児童館の子供達との交流や自治会の行事への参加など、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のカラオケグループに、月に一回ホールを開放して利用者と共に歌を歌ったり、おしゃべりをして、認知症についての理解を深めている。その後、茶話会を開き近隣の方も気楽に立ち寄ってくれる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター利用者の参加で防災についての取り組みやサービスの取り組み状況などについて報告している。運動会・クリスマス会等の行事の時は参加して頂く。	会議では、ホームから活動状況や近況報告、行事予定等について詳しく報告がなされている。メンバー間の話し合いの中で、災害時の対策として連絡網作成の提案があり、現在、具体的な検討を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの連絡事項やアンケート等で説明を聞きたい時、市役所に出向いた際に、担当者と積極的に交流し、協力する関係を築くように努めている。	運営者は市の担当窓口に出向き、ホームの近況報告や課題等について相談や指導を受けている。年2回開催されている地域ケア会議にも参加して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の鍵は、基本的におらず身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束が必要な場合については、申し送りや、気づきノートにて職員同士の意見交換をしている。	職員は内外の研修や勉強会に参加して身体拘束の弊害を学び、理解を深め、身体拘束のないケアに全員で取り組んでいる。見守りを重視した取組で、日中は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待はもちろん、精神的虐待につながるような言動がないよう常に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加して職員での勉強会を開いたり、成年後見制度については講師を招き、学ぶ機会を得た。利用者一人が利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の説明を重要事項説明書等で充分に行っている。契約書をじっくりと読み込んでもらい、疑問にはその都度明確に答えるようにし、納得して頂いた上で契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族にも参加をお願いし、意見や要望を出してもらう機会を設けている。また、面会時に日頃の様子を説明して要望はないか尋ねたり、意見を出しやすい環境を作るようにしている。	運営推進会議に家族の代表が出席して、意見や要望を表す機会を設けている。また、家族の来訪時やホームの行事開催時に本人を含めて話し合いの場を持ち、意見や要望を引き出す努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に気楽に相談できる環境をつくり問題が発生した場合、その都度、職員会を開き検討して運営に反映させている。	毎月の職員会議やミーティングで職員の提案や意見を聞く機会を設けている。浴槽が若干深く、入浴時の介助に苦勞するとの意見があり、介護用の椅子を設置して改善した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が利用者の介護にやりがいを持って接することができるように、職員の希望・要望を最大限に聞き、それに添える様に努力している。給与体制も希望に添い、残業もせず、スムーズに次に繋げるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護の質の向上に繋がるよう、時間の許す限り希望する研修には参加をするように奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する研修等に管理者と職員が出席し、他の事業所との交流や勉強会等の活動を通じ、情報交換やサービスの質の向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から情報の収集につとめ、不安軽減のために話を聞いたり、一緒に行動したりしている。環境の変化に戸惑わないように寄り添うケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族に伺ったこと以外に、新たな要望があるときは、電話や面会時に伺うなど、いつでも家族の都合の良い時間に合わせて相談して頂ける体制を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望を聞き、必要な支援は何かを見極めようと努力している。他のサービス利用が必要となることは何か、情報収集し家族に伝え、話し合ったうえで判断するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体調をみて洗濯物たたみや食器洗い、掃除などを一緒にして頂くようにしている。職員は尊厳をもった対応を心がけ、共に同じという態度を表して接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常の楽しいエピソードを家族の面会時に話し、笑顔を共有している。家族が昼夜問わずいつでも面会に来やすく、話しやすい環境をつくるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、勤めていた職場の同僚がたずねてこられたりしている。面会に制限がないこと、面会時間も事前に連絡してくれれば夜間遅い時間でも対応できること、外出や外泊も可能なことを家族に伝え奨励している。	なじみの人との関係が継続できるよう、夜間遅い時間でも面談ができるように支援している。家族の協力を得て、買物や外泊も可能となっており、正月や盆に外泊をする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、ホールで過ごしてもらい、自室に閉じこもってしまわないように声を掛けている。ホールでテーブルを囲み、座ることで利用者同士が話しやすい環境をつくり、職員が話題の提供をすることでお互いが興味をもち、会話を持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	通所後の病院に面会に行ったり、その後の様子を電話で伺ったりして近況を確認している。退居後も相談があれば気楽に立ち寄れる様に努めている。家族から相談があれば、答えられるように情報の収集を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の情報を参考にしたり利用者、家族から好きなこと、今までしてきたことを聞いたり、本人の動きや生活動作の中で意向をみだして、職員で情報を共有している。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)の一部を活用して、これまでの生活歴や趣味、嗜好等を本人や家族、関係者から聞き取り、思いや意向の把握に生かしている。また、日々の暮らしの中での表情や会話等を参考に把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や前のケアマネの方、施設の職員などから情報をもらい、アセスメントしながら経過を把握している。家族の写真を飾ったり、思い出の品物を持ち込んだりして、いつまでも家族と繋がっていることを感じられるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務に入る前に、前職員から状況の申し送りをうけ、記録を確認している。変化のあった利用者については、いつ頃からの変化か、職員はどう対応していくのかを職員同士で話し合っ業務にのぞんでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングについては、全職員で行っている。サービス会議は、家族の日程に合わせて、ケアマネ・看護師・担当の介護者も参加し、内容はスタッフ会議で確認している。	サービス担当者会議で、本人や家族の意向や要望を把握し、職員や関係者の意見・アイデアを反映した介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、状況に応じて適切に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤、日勤の記録は色分けし、職員が把握しやすいようにしている。処理等については、チェックで確認している。職員間で意見を出し合い、情報を共有し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の体調の変化に合わせて、柔軟な対応で、その人のニーズに添えるように、職員みんなで取り組んでいる。		

宮崎県宮崎市 グループホーム野の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の児童館から行事参加の招待を受け、子供達と交流したり、自治会主催の食事会に参加している。地域のボランティアの方々の定期的な訪問も利用者の楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	第一に本人・家族の意向を尊重して決めて頂く。又、かかりつけ医師と看護師・職員は、些細な情報も提供し安心して受診が受けられるようにしている。協力医の往診が月2回、歯科医の訪問診療も取り入れている。	利用者や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。ほとんどの利用者が協力医療機関をかかりつけ医としており、月2回の往診があり、急変時や夜間の対応についても支援体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、不規則な勤務体制の中で利用者の身体に関する変化を早急に捉え、詳細な記録と共に申し送りを確実にし、看護師に報告し、看護師に見解を得た上で、主治医に伝え、疾病の早期発見に繋がるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、入院に至るまでの日常の情報、健康面についての情報を提供している。看護師、ケアマネの面会を通じて医療機関と情報を共有することで、本人・家族が安心して治療に専念出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の今後予想される身体変化やホームで対応出来る事、難しい事をサービス会議等で話している。家族の思いを最優先にするために、家族の意向をその都度確認、職員間で協議している。	利用開始時に看取りについての指針を説明し、同意を得ている。ホームでできること、難しいことを本人や家族に十分説明し、医師や職員、関係者と方針を共有し、連携して支援している。看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の中に応急手当普及員がおり、定期的に行っている職員会議の中で、利用者の怪我や事故に対する初期の応急手当を実践で役立てるように訓練したり、毎日の介護の中で実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練時は当然のこと、職員が利用者の避難方法を身につけるように訓練に取り組んでいる。自治会主催の防災訓練等には地域の人達と一緒に職員、利用者も参加している。飲料水や食料品等、必要量の備蓄に努めている。	夜間想定を含む災害避難訓練を年2回実施しており、飲料水や食料も備蓄している。災害時の対応について、運営推進会議で災害時の連絡網作成や地域との協力体制について検討しているが、実現には至っていない。	特に夜間の災害発生では、職員だけの対応では限界があるので、避難訓練に近隣住民の参加を呼びかけ、地域との協力体制を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のそばに行き、耳元でトイレの声掛けをする。失禁時も他の利用者に気づかれないように手早く対応、大声を出さない等、誇りやプライドを維持していることを意識しながら支援している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉づかいや対応に配慮している。特にトイレや入浴時の声かけ・介助には、細心の配慮をして取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を表出しやすいよう、椅子と一緒に座り、話をきいておやつの後等にできるだけ思いが叶うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせて日々送って頂いている。時には、昔のカラオケを流したりしている。天気の良い日は、散歩などベランダに出て遠くの山々を眺めたりされる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に洋服を選んで頂いている。髪も伸びたらカットして頂く。男性の方は、声掛けし自らひげそりされる。そり残しがあった時は、スタッフが介助する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を作成する場合、利用者から、リクエストを聴く事もある。時には、外食感を味わって頂くため、プレートなどに盛り気分転換して頂く。天気の良い日には、近くの公園まで行って食べる事もある。食後にはお盆拭きの手伝いをしている	利用者が食事を楽しめるよう、一人ひとりの好みや要望を聞き、栄養バランスの良い食事を提供している。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、会話をしながら同じ食事をとっている。後片づけを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	真夏は、熱中症などに気を付けている。朝・昼・夕とバランス良くし、便秘にならない様、繊維のある物などを食べて頂いている。むせのある時は、トロミを付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きが自ら出来る人は、声掛けにて磨いて頂く。介助が必要な人は、洗面所にてスタッフと一緒にして頂く。週に一回は、義歯を入れ歯洗浄剤にて消毒する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすために個々の排泄パターンを把握しトイレの声掛け誘導を実施している。夜間オムツの方も日中は、布パンツを使用し自立にむけた支援を行っている。	排せつチェック表を活用して、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。おむつを減らす取組も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事を心がけ、水分の摂取に気を配り、体操やウォーキングなどを日々実践している。また、主治医や看護師の指示に従い下剤の投与も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の体調や気分などを考慮し楽しく入浴していただけるように温度や言葉かけなどこまかく配慮して実践している。	入浴は冬は週2回、夏は週3回としているが、希望があればいつでも入浴できるよう柔軟に対応している。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、タイミングに合わせて声をかけるなど、工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて冷暖房を調節したり、入床前後の心の安定を図るなどして、安眠できる環境作りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の説明書をファイルして、いつでも利用者に説明できるようにしている。また、誤薬防止のために厳重な管理のもとで投与を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれ趣味や好きなことを把握し、共に楽しむ時間を作っている。カラオケ・ゲーム等も取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くの公園へ散歩に出かけたり、地域の行事に参加したり、ご家族の協力を得て外出なども勧めている。	日常的に近くの公園まで散歩に出掛けたり、ふれあい食事会への参加や家族の協力を得て、買物や外食等に出掛けている。福祉バスを利用して花見やドライブに出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ホームで務めているがお金を所持することで安心する利用者には、財布の中に小銭や千円札を所持しており本人が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、電話を職員が代行してかけるようにしている。家族の了解をとり、不安が強い時に話をしてもらうために電話をかけたり、寂しがっている時に家族からかけてもらったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝、昼、夕と皆が食事をしたり、日中過ごす事の多いホールにはお花を生けたり、利用者さんの作品を掲示し、毎月の行事の写真を貼ったりして、いつでも会話のきっかけになるように心がけている。洗面所、浴室、トイレ等は常に清潔に保っている。	換気や温・湿度調整など、利用者が日々快適に過ごせるよう配慮している。ホールにはソファを置き、利用者がゆったりと過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの利用者同士隣あわせの席で自然な会話ができるようにしている。ホールの壁際にソファをおいているが、昼寝をしたり独りで座っていたい時に利用するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今迄使用していた寝具、衣類、茶わん等を持参して頂き、家庭での延長線での生活が継続してできるように1人1人に工夫、支援している。	家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。使い慣れた寝具や食器等を持ち込み、これまで過ごした家庭での延長線上での生活ができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立出来る利用者さんは、奥の居室、介助の必要な方や、急変が予想される方はホールに面した居室になっており、常にスタッフは、安全に心がけている。		